

# 沢田穰治trio

沢田穰治contrabass  
望月慎一郎piano  
沼直也drums

2019 05月26日(日)

開場 14:30

開演 15:00~

(2ステージ入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)

MC 3500円+2drinks order

CAFE **B**EULMANS

03-3484-0047

info.cafebeulmans@gmail.com

東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、  
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を  
ご記載ください。



## 望月慎一郎

1980年、静岡県生まれ。幼少から音楽に触れ、6歳で曲を書きはじめた。13歳の頃には海外でも自作曲を披露し、既に作曲は日常のものとなっていくなかでジャズに出会い、以降は独学で研究を重ねている。尊敬する宇宙飛行士らの影響を受けてエンジニアへの憧れもあったため音楽大学ではなく工学部へ進学し周囲を驚愕させたが、在籍時は放射線管理区域で実験を繰り返す毎日を送りながらも音楽創作活動を継続しヤマハ講師グレードも取得、音楽研究を片時も忘れなかった。現在は長野県で半導体・電子部品等の開発技術者を生業としながら、欧州ジャズに近い演奏スタイルを取り入れ、独自の方法論を研究し自作曲の創作活動を精力的に続けている。2017年、ピアノトリオによる大作アルバム「Visionary」(SONG X 047)をリリース。2018年、橋爪亮督(sax)をフロントに向かえた「Another Vision」(SONG X 054)をリリース。

## 沢田穰治

ChoroClubのベーシストでありながら、様々な楽器を愉しむ。その活動は幅広く、ジャンルにとらわれない活動を続けながら様々なアーティストのプロデュースや映画、アニメ、ドラマなどの音楽制作など多い。近年の作品にはアントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「Canta Jobim」、2011年の震災を受け止めて音楽として昇華した「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、 「武満徹ソングブック」等、最近ではジャズギタリスト馬場孝喜「Gray Zone」、日本初録音となるジョージ・クラム作曲『マクロコスモスII』や畠山美由紀「歌で逢いましょう」などをプロデュース。アレンジャーとして今までのおおたか静流、川本真琴、フィッシュマンズ、忌野清志郎、太田裕美、パッファロードーター、上間綾乃、松下奈緒などほか、多数手がける。活動においてはアルゼンチンやブラジルの音楽家からの信頼もあつく、レコーディングやセッションを重ねている。直近でのリリースでは高木正勝、渡辺亮、馬場孝喜など京都ゆかりの音楽家と共に制作した「Closeness Ensemble of Kyoto / WaBaSaTa」がsong x jazzからリリース。

## 沼直也

山口県出身。ジャズドラマーのジョージ大塚に師事し、その後アメリカへ留学。帰国後1998年に、藤原大輔(Sax)とストリートバンド「Phat」を結成、2002年に東芝EMI Blue Noteレーベルよりアルバム「色[siki]」をリリース。同時期に、打楽器のみによるストリートライブ「品川パーカッション・セッション」を展開する。これまで加藤登紀子、KAZ南沢、松下奈緒、キマグレン、jimamaraのサポートドラムを担当。また、シャーロックホームズ、アダムスファミリー、マダーバラッド、ファーストデート、戯伝写楽など、ミュージカルでの公演も数多い。現在、水谷八重子のコンサートサポートや、F.I.B Journal、Next to SilenceTrio、Linn Tetra、Banda Choro Eletrico、Tropical Express、DOMINOのメンバーとして活動しており、オリジナルのドラムセット「カセット・ドラム」で、新たなサウンドを追求している。